

飼料価格高騰に係る技術対策

令和4年1月
経営技術課・畜産振興課

I 自給飼料生産の拡大 ----- 別紙①②③④⑤

1 自給飼料生産面積の拡大

自給飼料の生産を拡大するため、水田の有効活用を図るとともに今まで飼料生産に取り組みにくかった農地も含め、できるだけ作付面積を拡大する。

- (1) 主食用米からの作付転換（連作障害対策も含む）。
- (2) 稲発酵粗飼料（稲WC S）の生産・利用推進。
- (3) コントラクター等飼料生産外部組織の活用。
- (4) 水田の裏作や地域の遊休農地（傾斜地や遠方の農地など）の有効利用。

【飼料作物のコスト削減効果】

畜産物生産費等から試算では、自給飼料乾物 1kg 当りの生産コストは 44.7 円であり、購入乾草が 77 円/kg とすると、約 32 円/kg の経費が削減。

2 単収の向上

限られた面積の中で、多くの自給飼料が確保できるよう多角的な取り組みを行う。

- (1) 優良草種や優良品種（奨励・認定品種、稲WC Sの極短穂茎葉型品種）の利用。
- (2) 適期播種や適期収穫の実施（気象条件に合わせて臨機応変に対応）。
- (3) 土壌診断や堆肥成分分析に基づく適正な施肥管理。
- (4) 雑草や病害虫の適切な防除対策の実施。
- (5) 水はけの良好なほ場の選定と排水対策。
- (6) 二毛作や二期作による年間を通じての単収向上。

3 サイレージの品質向上

サイレージ収穫・調製時には次の点に注意し、高品質な自給飼料を生産する。

- (1) 丁寧な作業による収穫ロスの削減。
- (2) 糖分含量が豊富な原料草の生産と確保。
- (3) 収穫時の土砂・雑草の混入防止。
- (4) 予乾や乾物の添加により、水分 65%以下で調製。
- (5) 十分な均平・踏圧作業の実施により密度を高め、サイレージの二次発酵を防止。
- (6) 嫌気性を向上させるため、サイロの早期密封。
- (7) 乳酸菌等の添加剤による、発酵品質の向上。

4 保管時のロスの低減

サイレージ保管時には次の点に注意し、高品質な自給飼料を確保する。

(1) バンカーサイロの保管上の注意

- ①機械の操作ミス等によるサイロの損傷等に注意する。
- ②ビニールの仕切りを設けたり、土のうやタイヤにより、空気の侵入を防ぐ。

(2) ロールベールの保管上の注意

- ①移動・グリップは最小限にし、ビニールの劣化に注意する。
- ②保管場所は排水性に注意。
- ③ロールは縦置き2段積みにし、間隔は50cm以上。
- ④ロール下に金網を敷き、野ネズミの対策をする（網目1cm程度ビニール被覆亀甲）。なお、ネズミの巣となるため、ロールの下にパレット、スノコを敷かない。
- ⑤鳥害対策はロールの上50cmの高さに50cm間隔でテグスを張る。
- ⑥防鳥ネットですっぽり覆うとネズミの被害が増えるので注意する。

5 公共牧場・経営内放牧の有効活用

公共牧場や経営内放牧を活用し、飼料費等の節減を図る。

【繁殖雌牛放牧のコスト削減効果】

繁殖雌牛1頭を6か月間、舎飼から放牧に切り替えることで経営コスト18.6万円の削減になる（農林水産省HP「放牧の部屋」より）。3頭放牧することで約55万円の経営コストを削減できる。なお、電気牧柵設置コストは約20万円（30a程度）。

II 購入飼料費の削減 ----- 別紙⑥⑦⑧

1 飼料給与の見直し

- (1) 家畜の生育状況に合せた適正給与を行う。特に乳牛の飼養管理については、搾乳ステージにより、必要とする養分要求率が大きく異なるので、乳量やボディーコンディションに合せた給与設計に基づく適正給与に努める。
- (2) 残飼や盗食などの状況を確認し、給与飼料が無駄にならないようチェックする。
- (3) 適正給与を行うため、粗飼料分析や給与飼料、代謝プロファイルテスト等に基づいた給与診断を行う。

2 新たな水田飼料作物、未利用飼料資源の有効活用

- (1) 地域の耕種農家と連携し、稲わら・麦わらの利用を図る。
- (2) 飼料用米の生産者と連携し、地域内流通に取り組む。
- (3) 耕畜連携による粃米サイレージの生産利用を実施する。
- (4) イアコーン、子実用トウモロコシ等の自給濃厚飼料の生産利用を検討する。
- (5) エコフィードの活用を検討する。なお、飼料の安全性の確保や飼料成分の把握が重要となるので、飼料としての有効性を確認した上で取り組みを開始する。

3 給与方法の見直し

- (1) 粗飼料は細断し、牛房への引込みロスを防ぐ。
- (2) 飼料の混合化による選り食いの防止により、嗜好性の悪い飼料の有効活用が図れるので、簡易TMRに取り組む。

Ⅲ 生産性の維持・向上 ----- 別紙⑨

1 酪農経営

- (1) 牛群検定（繁殖台帳 web システム）や代謝プロファイルテストに基づく飼料給与診断を活用するとともに、牛群管理システムなどの ICT を活用することで産乳性・繁殖成績の向上に取り組む。
- (2) 産乳成績の低下した乳牛を淘汰するとともに、ゲノミック評価、受精卵移植、性選別精液などの活用により効率的に優良後継牛を確保して、1頭当たりの搾乳量を向上させる。
- (3) 分娩前後の飼養管理に注意し、繁殖成績を向上させて、生涯乳量の向上を図る。特に分娩前にあたる乾乳後期の栄養管理には注意し、脂肪動員をできるだけ防ぎ、急激なボディーコンディションの変化がないよう、飼養管理に注意する。

2 肉用牛経営

【繁殖】

- (1) 繁殖成績の向上
 - ①分娩前後の適切な栄養管理により、繁殖雌牛の繁殖機能の早期回復や乳質、乳量を確保するとともに、子牛の事故率低減を図る。
 - ②発情回帰の早期化を図るために超早期母子分離を行う場合、離乳後過肥にならないよう、飼料給与を適切に行う。
 - ③発情発見システムの活用による適期授精や、超音波装置による早期妊娠診断を活用し、牛群全体の妊娠率を向上させる。
 - ④分娩監視システムの活用により、分娩時の事故防止を図る。
- (2) 子牛の出荷成績の向上
 - ①哺乳期後半からのスターターの摂取量を確保するとともに、育成期に粗飼料を十分に給与することで、消化器官の発達を促し、生産性の高い素牛の育成に努める。
 - ②衛生管理に気を配るとともに、獣医師の指導のもと適切なワクチン、駆虫プログラムを実施し、疾病の予防を図る。

【肥育】

- (1) 過肥にならずに月齢に応じた発育を示す生産性に優れた肥育素牛を導入し、飼直しによるロスを防止する。

- (2) 行動センサーや監視カメラ等を活用し、肥育期間中の事故による損失を防止する。
- (3) 超音波肉質診断や血液検査などを活用し、肥育ステージに合わせた適正なビタミンコントロールや飼料給与に基づき合理的な肥育に努め、過度のビタミンA抑制による疾病・事故等の発生を防止する。
- (4) 増体量を目安に出荷適期を判断し、肥育期間の短縮に努める。

3 養豚経営

(1) 母豚1頭あたり生産頭数の増加

- ①母群管理システム等の利用により、母豚の適正な給与管理や発情発見を図ることで、繁殖成績の向上を図る。
- ②超音波妊娠診断装置や妊娠鑑定器などを活用し、確実に妊娠鑑定することで、長期空胎を防止する。
- ③液状精液購入による人工授精技術の導入により、種雄豚の飼養負担を軽減する。
- ④種雄豚の精液性状の確認と使用頻度の適正化を行う。
- ⑤衛生管理に気を配るとともに、獣医師の指導のもと適切なワクチン、駆虫プログラムを実施し、疾病の予防を図る。

(2) 肉豚出荷の効率化

- ①産肉能力の優れた母豚の選抜により生産効率を改善する。
- ②密飼いによる事故を防止し、飼養密度を適正に保ち、ストレスの低減化を図る。
- ③カメラ画像による体重推定や自動計測の体重計などを活用しながら、肉豚の体重を正確に把握し、適正な時期での出荷を図る。

4 養鶏経営

- (1) 鶏舎の温湿度・換気等の環境を整え、ストレスの軽減等により飼料要求率の改善を図る。
- (2) 低価な穀類（地域内の飼料用米、くず麦等）を利用する。

IV 疾病予防・事故防止 ----- 別紙⑩

- 1 畜舎環境を整える。特に子畜は環境の変化に弱いため、畜舎環境の管理に注意する。
- 2 畜舎・器具機材の定期的な清掃と消毒の実施、外部導入時の防疫の徹底。
- 3 疾病の早期発見と早期治療。
- 4 繁殖検診等による繁殖成績の向上。
- 5 適正な搾乳による乳房炎の予防。

V 制度資金等対策 ----- 別紙⑪

飼料価格高騰の影響緩和のために長期運転資金の利用と経営の安定化に向けた各種支援事業や制度資金の活用を検討する。